

プロジェクト科目ホームページ

TOP <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>

同志社大学
Doshisha University

大学紹介 教育(学部・大学院) 研究活動 国際交流・留学 図書館 キャリア形成支援・就職 教育研究開発・地域貢献

同志社大学で学びたい方 学編入試 大学編入試 進学学習 在学生 卒業生 一般の方

ホーム 学業 履修 試験 プロジェクト科目

在学学生

プロジェクト科目

授業・履修・試験

- 科目登録日程
- 授業時間等
- 授業教室
- 休講情報
- 試験等の種類と注意(レポート表紙・道試験ダウンロード)
- 試験実施情報
- 卒業成績
- 専攻管轄発表特等の授業・試験の実施(司法研究科以外)
- 国内留学・単位互換
- GPA制度の導入について
- 外国語オナズ(外国語科目成績優秀者表彰制度)
- 卒制一般内規
- ネットワーク利用資格認定試験
- パソコン利用者講習会
- プロジェクト科目
 - テーマ募集
 - テーマ一覧
 - 登録説明会・先行登録
 - 成果報告会
 - CNSIについて
 - ダウンロード
 - 教養演習科目
 - e-Learning

お知らせ

2009/3/16 2009年度プロジェクト科目登録説明会・先行登録のお知らせ

2009/01/08 2月21日(土)にシンポジウムを開催します。

2009/1/7 2009年度プロジェクト科目テーマ一覧より詳細情報へのリンクを作成しました。

2008/12/24 2009年度プロジェクト科目秋季期成果報告会について

2008/12/3 2009年度プロジェクト科目のテーマ決定結果について

2008/10/15 2009年度プロジェクト科目応募テーマの科目代表公開について

2008/10/11 2009年度プロジェクト科目テーマの募集は終了しました。

2008/8/8 2009年度プロジェクト科目テーマ募集・公募説明会開催のお知らせ

2008/7/14 2009年度プロジェクト科目秋季期科目の再募集について

2008/6/25 2008年度プロジェクト科目春季期成果報告会について

2008/5/09 CNSIについて

2008/4/08 2008年度プロジェクト科目開講科目について

2008/4/02 2008年度プロジェクト科目選考結果提示と再募集について

2008/3/19 シンポジウムの開催報告について

2008/2/26 2008年度プロジェクト科目登録説明会・先行登録のお知らせ

2008/1/16 2009年度プロジェクト科目テーマ一覧より詳細情報へのリンクを作成しました。

2008/1/10 2007年度秋季期成果報告会を開催しました。

2008/01/08 2月23日(土)にシンポジウムを開催(終了しました)

2007/12/09 2008年度プロジェクト科目のテーマ決定結果について

2007/11/01 テーマの募集は終了しました。たくさんのご応募を頂き、ありがとうございました。

2007/10/31 CNSIについて

TOP 画面からプロジェクト科目紹介ビデオが閲覧できる

同志社大学
Doshisha University

同志社大学は、従来の教室での座学中心の授業形態とは異なった実践型・参加型の学習機会を重視したプロジェクト・ベース・ラーニング(PBL)を基本とする、授業科目「プロジェクト科目」を一貫2006年度から設置しています。

このプロジェクト科目は、地域社会や企業の方々に講師をお越し、地域社会と企業がもつ教育力を大学の正統的教育課程の中に導入することによって、学生に生きた知恵や技術を学ばせるとともに、「現場に学ぶ」視点を育み、実践的な問題発見・解決能力など、いわゆる学生の総合的人間力を養成することを目的としています。

大学の学部生の正課科目で、プロジェクト・ベースに学習を進めていく科目です。ご授業いただいたテーマをプロジェクトとして、学生が主体的・自律的に学んでいく形で授業を展開していただきます。従来の座学では経験できない、実践的・体験的学習です。

プロジェクト科目紹介ビデオ

1M ver.

512k ver.

0:05:49

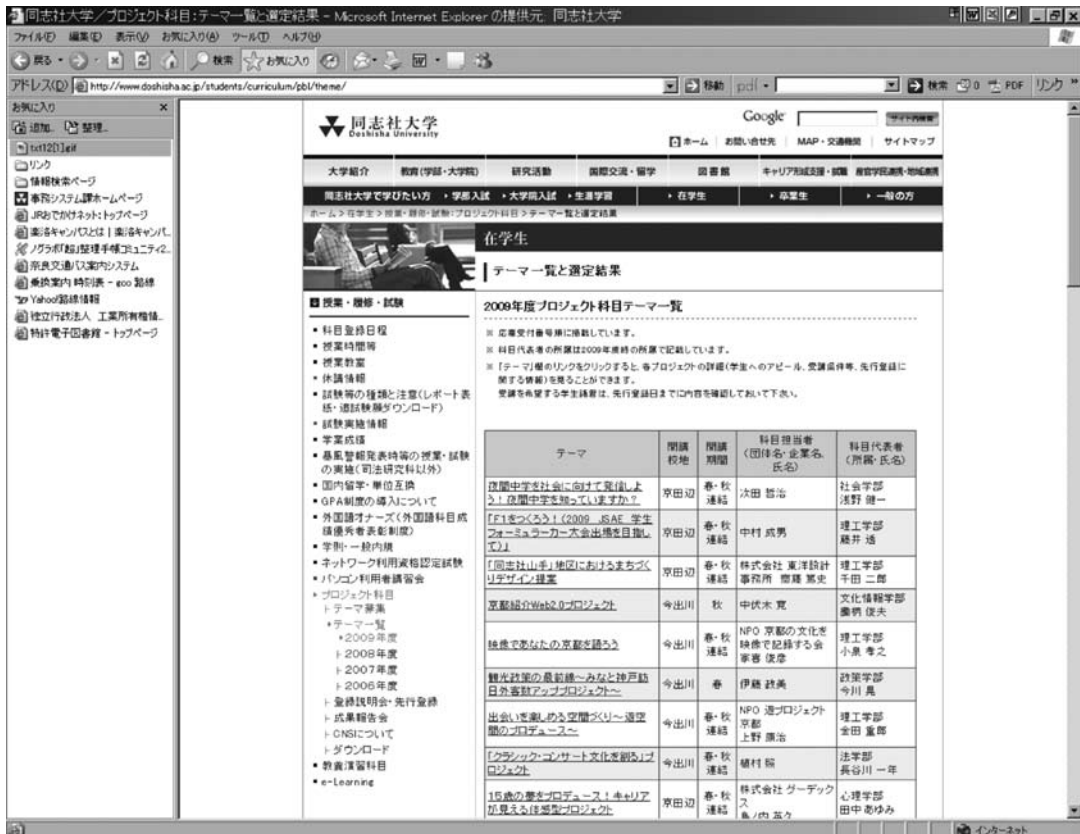
このビデオを再生するにはWindows Media Playerが必要ですが、アイコンをクリックしてダウンロードしてください。(標準)

活動写真

科目に関する最新の情報・科目別活動を紹介するブログ <http://pbl.doshisha.ac.jp/blog/>



年次別に開講科目を紹介 <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/theme/>



各担当者による学生むけアピール文 <http://pbl.doshisha.ac.jp/html/appeal/>

同志社大学 / プロジェクト科目 / 詳細情報 / 私の「着てみたいきもの」をプロデュースしてみよう - Microsoft Internet Explorer の提供元: 同志社大学

アドレス: <http://pbl.doshisha.ac.jp/html/appeal/0917.html>

プロジェクト名	私の「着てみたいきもの」をプロデュースしてみよう
科目担当	丸池 麗井 株式会社 三平野 寿二
科目代表者	商学部 香木 真美

平玉さんへ

「きもの」と言えば誰でも知っているし、ほとんどの人が「着てみたい」と憧れを持っている。しかし、「きものを着るとなると、特に若い人たちは戸惑いを覚え、いつ、何と、どうすればよいのか分からないし、自分で買うことも難しい、これが現状です。

このプロジェクトでは、学生の皆さんが「私が着てみたいきもの」「自分たちが作るならこんなきもの」という思いをテーマに、新しいきものプロデュースへ挑戦します。そして最終的には、着たきもの制作まで行いましょう。

現在「和」は斬新なモチーフとして様々な分野で人気がありますが、きものマーケットは縮小傾向にあります。なぜこのような現象が起こるのか、どこに問題があるのか、どうすればきもの市場を元気に楽しくすることができるのか。

京都のきもの作り現場と人々のライフスタイルの変化を分析して、本当に着てみたい人の立場から新しいきもの提案を行います。

プロジェクトの流れは大きく分けて下記のように進められます。

- (1) 目標: マーケットに出したいきもの提案、プレゼンテーションマップを作成し、実際に着たきものを制作します。
- (2) きもの基礎知識の学習: きもの歴史や種類、工務仕様、着付け法。
- (3) 問題提起: 和のトレンドなのになぜマーケットは縮小するのか、リサーチと分析で問題点を洗い出します。
- (4) 仮説: 私たちがプロデュースしたきものなら市場は受け容れるはず、自分が着る立場から商品提案を考えます。
- (5) 実践: 私たちのきもの提案マップ作成、大型プリンターでサンプル作成、最終的にサンプルの中から新しい着てみたいきもの着たきもの生地を染めてきもの制作をします。

きものを通して、京都の伝統や技術、問題発見と解決、多くの人とのコミュニケーション、生み出すことの難しさ、新たなことへの楽しさなどを実感し学習します。

男性、女性、学年、学部は関係ありません。きものに少しでも興味のある人なら、一緒に「私のきもの」を作りましょう。

成果報告会のお知らせ <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/reporting.php>

同志社大学 / プロジェクト科目 / 成果報告会 - Microsoft Internet Explorer の提供元: 同志社大学

アドレス: <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/reporting.php>

同志社大学
Doshisha University

大学紹介 教育(学部・大学院) 研究活動 国際交流・留学 図書館 キーワード検索 就職 商学部実践・地域連携

同志社大学で学びたい方・学部入試・大学院入試・進学学習 在学生 卒業生 一般の方

ホーム > 在学生 > 授業・試験 > プロジェクト科目 > 成果報告会

在学生

成果報告会

授業・試験

- 科目登録日程
- 授業時間等
- 授業教室
- 休講情報
- 試験物の種類と注意(レポート表紙・宿題表紙ダウンロード)
- 試験実施情報
- 卒業式
- 募集要項発表時等の授業・試験の実施(司法研究科以外)
- 国内留学・単位互換
- GPA制度の導入について
- 外国語オナーズ(外国語科目成績優秀表彰制度)
- 学則一般内規
- ネットワーク利用資格認定試験
- パソコン利用講習会
- プロジェクト科目
- テーマ募集
- テーマ一覧
- 登録説明会・先行登録
- 成果報告会
- トクシについて
- トダウンロード
- 教養演習科目
- e-Learning

プロジェクト科目の成果報告会を開催します。この成果報告会では、プロジェクト活動で学んだ成果を学生自身が発表します。

報告は学生が行います。

発表形式は、自由です。各プロジェクトの内容や特性を生かし、趣向を凝らした、視覚的に溢れるプレゼンテーションを期待しています。

※ 報告は、秋学期科目、春学期科目関連科目と合わせて発表12分・質疑応答5分の成果報告が行われます。

どなたでも来聴できます。

同世代の学生がどんなことに興味を持ち、どんなことを学んでいるのか、興味がありませんか? もちろん、学生だけでなく、教職員の方、一般の方も大歓迎です。ご興味のある方は是非、足をお運びください。

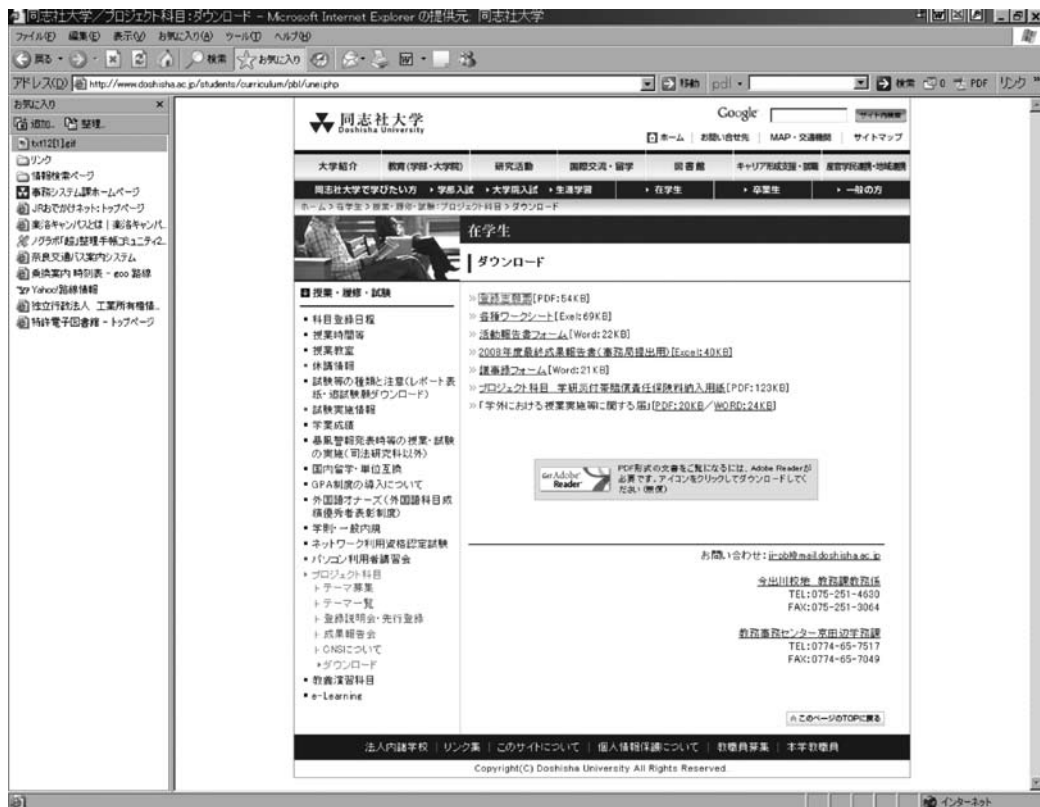
開催日・場所・テーマ

【京田辺校地】
日時: 2009年11月21日(水)13:00~15:30
場所: 学生館102番教室

CNS (Social Networking Service) の紹介 <http://cns.doshisha.ac.jp>



各種提出書類 ダウンロード <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/unei.php>



◇2006年度 先行登録説明会 パンフレット(1)

自分自身のキャリアを実践的にデザインする。

プロジェクト科目は学生主体の参加型・実践型の新しい授業スタイルです。最初は自分自身の人生を自らデザインし、プロジェクトでできる人材の育成です。そのために従来の授業とは異なり、多くの学内のみなさんに協力をお願いし、授業担当者(指導員)一人より受講しました。また、プロジェクト科目では学生が積極的に参加し、その解決策を模索します。しかし、それは自分たちが身につけた知識やスキル、自分たちが身につけたスキルです。そこで、多岐多岐の分野に精通し、自分たちの夢を実現するために、授業の場でも自分たちが、夢を実現可能なレベルまでデザインしていくことを目指します。

日本初!
プロジェクト型
授業教育

2006年度
プロジェクト科目
先行登録会及び先行登録
3月25日(土)

同志社大学

◇2006年度 先行登録説明会 パンフレット(2)

自分自身のキャリアを実践的にデザインする

プロジェクト科目は学生主体の参加型・実践型の新しい授業スタイルです。最初は自分自身の人生を自らデザインし、プロジェクトでできる人材の育成です。そのために従来の授業とは異なり、多くの学内のみなさんに協力をお願いし、授業担当者(指導員)一人より受講しました。また、プロジェクト科目では学生が積極的に参加し、その解決策を模索します。しかし、それは自分たちが身につけた知識やスキル、自分たちが身につけたスキルです。そこで、多岐多岐の分野に精通し、自分たちの夢を実現するために、授業の場でも自分たちが、夢を実現可能なレベルまでデザインしていくことを目指します。

2006年度プロジェクト科目
先行登録会及び先行登録 **3/25(土)**

日本初プロジェクト型の授業教育

PROJECT

同志社大学

◇2006年度 先行登録説明会 パンフレット(3)

プロジェクト科目で 自分自信の力を 試してみないか。

プロジェクト科目はより実践的で幅広い生き抜く知恵と知識を身に付けることができます。

- もっといろんな人と交流したい → コミュニケーション能力
- 人前で話すのが苦手・自己表現を上手にしたい → プレゼンテーション能力
- 時間管理が上手にできない → 自己管理能力
- 社会ですぐに役に立つ力を身に付けたい → 即戦力の表現力
- イベントを作り上げ、実行したい → 行動力、企画立案能力
- いつもNo.2で一歩前に出ることができなかった人 → リーダーシップ
- 人や資源を効率的に管理する力を身に付けたい → マネジメント能力

【参加可能な授業科目】

テーマ	担当教員(指導員)
「食育」授業(食育の重要性を中心として)	NPO法人 いびい(人)食育推進委員会 奥野 浩二
本邦初!地域の発展と環境教育の活用	NPO法人 環境教育推進 安藤 尚哉
21世紀の未来(2008-JAIS)学生フォーミュラ(一次出場を目指して)	中村 成典
就業履歴を通じて学ぶ学生のための「実践と自立のための就業実践」	株式会社 タカラエー 藤田 尚貴
学生コンファレンス(プロジェクト制作プロジェクト)	京都府環境教育推進センター(京エコロジーセンター) 橋本 貴
研究と社会をつなぐ研究家のプロジェクト	NPO法人 KSG 藤田 有正
官学連携による環境管理実践システム開発と自治体事業推進プロジェクト	金田 豊郎
地域連携を促す支援システム(学生)プロジェクト	笠原 博典
サステナブルな未来のための社会貢献	NPO法人 いびい(人)食育推進委員会 奥野 浩二
地域(京都市)の中心製造業のモノづくり振興への支援	NPO法人 ネンモノづくりプロジェクト推進センター 高 康洋

【参加可能な授業科目】

テーマ	担当教員(指導員)
映画で探る「新時代文化」	Pang Jun
京都の歴史と文化	NPO法人 京都の文化を継承する会 まつり 祐
織りの世界—伝統的技術の復興と伝承—	藤村 光隆
知的障害のある人達が暮らすグループホームの設立	NPO法人 わくわく 近藤 孝知博
私が知る京都—学生による文化イベントの企画・推進	京都府環境教育推進 富士宮 まつり
21世紀の未来(2008-JAIS)学生フォーミュラ(二次出場を目指して)	橋本 有正
小学生のための職業入門プログラムの開発と研究	山田 聡夫
本職職場(「職水場」)から総合的に考える	NPO法人 京都・清水の会(まよひ)あまみずの会(一) 上田 正幸
安心・安全なまちづくり実践研究推進	高山 文雄
京都の文化的景観 その伝承と継承活用 プロジェクト	高山 文雄
生活者としての歴史と文化を守る—伝統のママまつり—	アーバンデザイン工房 山田 康洋
優れた京都を継承する—上京を中心—	山田 康洋
まちを「居こぼ」(編集)アーカイブプロジェクト	株式会社 宇 暲輝 正志
健康づくりを推進し、心身を健全な生活習慣を創出するプロジェクト	株式会社 ヘルソリティー(一) 河本 真作
アートに立ち会う—創造の場との出会い—	岡崎 洋、 藤村 光隆

プロジェクト科 春学期 成果報告会

学生による
プレゼンテーション

どなたでも
来聴できます!

■プロジェクト科目は、2006年度から設置された教養教育科目で、企業や地域社会の方々から提案されたテーマに対して、学生自らが企画・議論・実行をしていく実践型・参加型の授業です。

報告は、発表12分、質疑3分の計15分(中間報告は、発表5分、質疑3分の計8分)で行います。

(京田辺校地)
7/14(Fri)17:00~KD201(恵道館 201 番教室)

テーマ	備考
玩具産業を通じて学ぶ学生のための「実践と自立のための玩具企画開発」	
京エコツアープログラム制作プロジェクト	
研究と社会をつなぐ研究会のプロデュース	
官学連携による道路管理支援システム開発と自治体事業評価研究プロジェクト	
地域連携子育て支援システム「子育てネット」	※中間報告
「食育と健康」(薬膳の食養生を中心として)	※中間報告
F1を作ろう! (2006 JSAE学生フォーミュラカー大会出場を目指して)	※中間報告

(今出川校地)
7/15(Sat)13:00~M21(明徳館 21 番教室)

テーマ	備考
水環境政策～「雨水局」から総合的に考える～	
安心・安全のまちづくり実践研究調査	
京都の文化的景観 その伝統と保存活用 プロジェクト	
生活者が町の歴史と文化を守る 一紙園のママとまちづくり	
映像で描き出す「京町家文化」	※中間報告
京都暮らしの音と映像	※中間報告
織りの世界～伝統技術の保存と伝承～	※中間報告
知的障害のある人達が暮らすグループホームの設立	※中間報告
私が創る京都～学生による文化イベントの企画・推進	※中間報告
コミュニティのエンパワーメントとNGOにおけるプログラム開発～滞日外国人支援～	※中間報告
小学生のための企業入門プログラムの開発と研究	※中間報告

同志社大学 プロジェクト科目運営委員会

プロジェクト科目 秋学期 成果報告会

学生による
プレゼンテーション

来聴歓迎!

一般・学生を問わず

■プロジェクト科目は、2006年度から設置された教養教育科目です。企業や地域社会の方々から提案されたテーマに対して、学生自らが企画・議論・実行をしていく実践型・参加型の授業です。

報告は、発表12分、質疑3分の計15分で学生が行います。

京田辺校地
1/22(月)17:00~18:30 KD104(恵道館 104 番教室)

テーマ	備考
サイエンス・メディアエーションによる社会貢献	秋学期
地域(京田辺市)の中小製造業のモノづくり強化への支援	秋学期
「食育と健康」(薬膳の食養生を中心として)	春・秋学期
F1を作ろう! (2006 JSAE学生フォーミュラカー大会出場を目指して)	春・秋学期

今出川校地
1/23(火)10:30~15:00 M21(明徳館 21 番教室)

テーマ	備考
隠れた京都を探る～上京を中心に～	秋学期
生きた「京ことば」映像アーカイブ化プロジェクト	秋学期
感情ロボットを活用した小学生創造力育成講座設計プロジェクト	秋学期
アートに立ち会う 創造の場との共生	秋学期
映像で描き出す「京町家文化」	春・秋学期
京都暮らしの音と映像	春・秋学期
織りの世界～伝統技術の保存と伝承～	春・秋学期
知的障害のある人達が暮らすグループホームの設立	春・秋学期
私が創る京都～学生による文化イベントの企画・推進	春・秋学期
コミュニティのエンパワーメントとNGOにおけるプログラム開発～滞日外国人支援～	春・秋学期
小学生のための企業入門プログラムの開発と研究	春・秋学期

同志社大学 プロジェクト科目運営委員会

<http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>

プロジェクト科目 2007年度 春学期 成果報告会

2007年度
春学期

□プロジェクト科目は、2006年度から設置された教養教育科目です。企業や地域社会の方々から提案されたテーマに対して、メンバー自らが企画・議論・実行をしていく実践型・参加型の授業です。春学期科目は成果報告(発表12分・質疑応答3分)、春秋連絡科目は中間発表(発表5分・質疑応答3分)がメンバーによって行われます。

来聴歓迎!

一般・学生を問わず

京田辺校地
7/17(火)13:00~16:00 KD201(恵道館 201 番教室)

テーマ	開講期間
玩具産業を通じて学ぶ学生のための「実践と自立のための玩具企画開発」	春学期
「いけいばんな知の特長」におけるまちづくりデザイン提案	春学期
「知的財産」の最終線から学ぶ～社会で役立つ知財を身につける～	春学期
新しい学びの場としてのこども向けワークショップのデザインと実践	春学期
いけいばんな観光素材発掘プロジェクト	春学期
「いけいばんな子どもサマーキャンプ」企画運営プロジェクト	春学期
京都企業に共通する優秀なDNAを探る	春学期
次世代モバイルプレーヤーの商品企画及び商品具現化	春学期
「食育と健康」(薬膳の食養生を中心として)	春・秋連絡
F1を作ろう! (2007 JSAE学生フォーミュラカー大会出場を目指して)	春・秋連絡
3Dコンテンツ制作プロジェクト～企画から制作まで～	春・秋連絡
クロスカルチュラル・プレゼンテーション	春・秋連絡

今出川校地
7/18(水)13:00~15:30 M21(明徳館 21 番教室)

テーマ	開講期間
新京都ブランドの創造	春学期
改革! 京都観光～京都観光の課題リサーチと改善案プロポーザル～	春学期
「クラシク・コンサート文化を創る」プロジェクト	春学期
new 文化創生 町家の伝統的な行事を知り日本人の心を取りもどす(先人の知恵)	春学期
京都暮らしの音と映像	春・秋連絡
京都の文化的景観 その保全活用とまちづくりを結び	春・秋連絡
「京町家文化」再考～再生利用と伝統の継承	春・秋連絡
京都紹介ブログ・ポッドキャスト制作・配信	春・秋連絡
量から質への「京都型ニューツーリズム」の開発と流通	春・秋連絡
子どものための「京都職場図鑑」作成プロジェクト	春・秋連絡
新しい京都の道徳ガイダンスを作ろう!	春・秋連絡

同志社大学 プロジェクト科目

<http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/> (プロジェクト科目HP)
<http://pbl.doshisha.ac.jp/blog/blog.cgi> (プロジェクト科目ブログ)

プロジェクト科目 2007年度 秋学期 成果報告会

2007年度
秋学期

□プロジェクト科目は、2006年度から設置された教養教育科目です。企業や地域社会の方々から提案されたテーマに対して、メンバー自らが企画・議論・実行をしていく実践型・参加型の授業です。秋学期科目、春学期秋連絡科目とも発表12分・質疑応答3分の成果報告が、メンバーによって行われます。

来聴歓迎!

一般・学生を問わず

京田辺校地
1/21(月)15:30~17:45 KD201(恵道館 201 番教室)

テーマ	開講期間
からだの心のための演劇+音楽ワークショップ	秋学期集中
「科学者のたまご学ぼう! INいけいばんな」企画運営プロジェクト	秋学期
日本のモノづくりを支え元気な地域(京田辺市)中小製造業の発掘	秋学期
F1を作ろう! (2007 JSAE学生フォーミュラカー大会出場を目指して)	春・秋連絡
3Dコンテンツ制作プロジェクト～企画から制作まで～	春・秋連絡
クロスカルチュラル・プレゼンテーション	春・秋連絡
「食育と健康」(薬膳の食養生を中心として)	春・秋連絡

今出川校地
1/22(火)13:00~15:45 M21(明徳館 21 番教室)

テーマ	開講期間
誰にでもやさしい喫茶店をいっしょに作ろう!～地域の中の居場所作りを目指して～	秋学期
新しいワークスタイルとオフィス環境の関係性を考える	秋学期
京都暮らしの音と映像	春・秋連絡
京都の文化的景観 その保全活用とまちづくりを結び	春・秋連絡
「京町家文化」再考～再生利用と伝統の継承	春・秋連絡
京都紹介ブログ・ポッドキャスト制作・配信	春・秋連絡
量から質への「京都型ニューツーリズム」の開発と流通	春・秋連絡
子どものための「京都職場図鑑」作成プロジェクト	春・秋連絡
新しい京都の道徳ガイダンスを作ろう!	春・秋連絡

同志社大学 プロジェクト科目

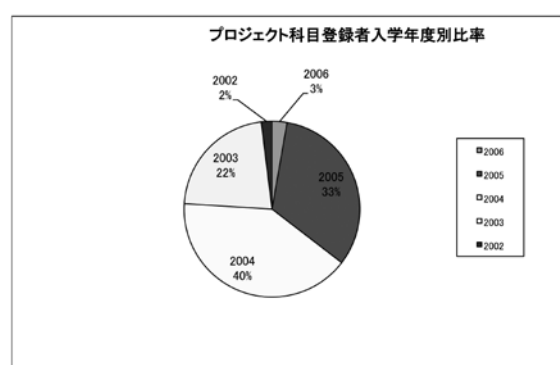
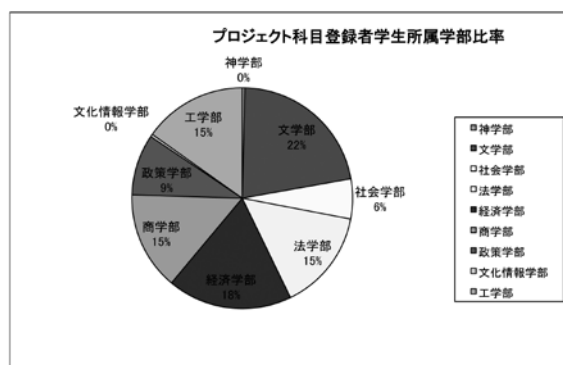
(プロジェクト科目HP) <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>
(プロジェクト科目ブログ) <http://pbl.doshisha.ac.jp/blog/blog.cgi>

学部・年度別登録者数データ

■2006年度プロジェクト科目所属学部・年度別登録者数（履修中止後）

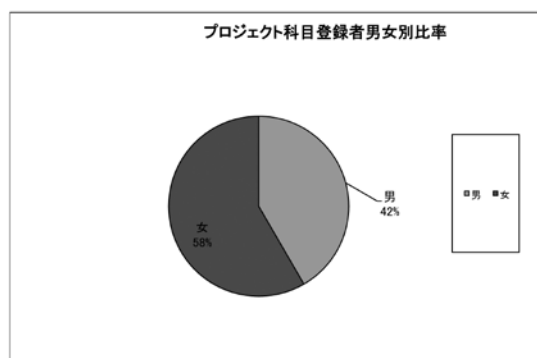
学生所属学部	2007	2006	2005	2004	2003	2002	合計
神 学 部			1				1
文 学 部	1	7	31	14	2	1	56
社 会 学 部	4	11					15
法 学 部	1	9	19	8	1		38
経 済 学 部	1	11	23	12			47
商 学 部		16	10	9	2		37
政 策 学 部		13	10				23
文 化 情 報 学 部		1					1
工 学 部		15	9	13		2	39
合 計	7	83	103	56	5	3	257

※社会学部の2006年度生は2名とも早稲田大学交換学生で、実際は3年生以上の学生である。



■2006年度プロジェクト科目所属学部・男女別登録者数（履修中止後）

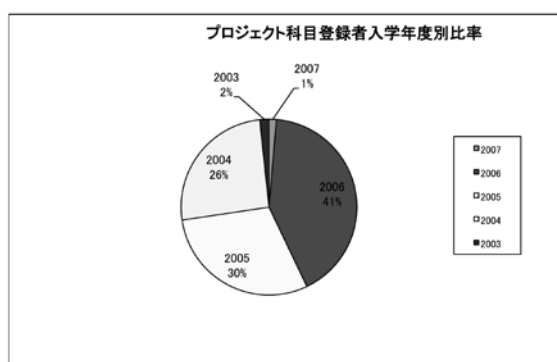
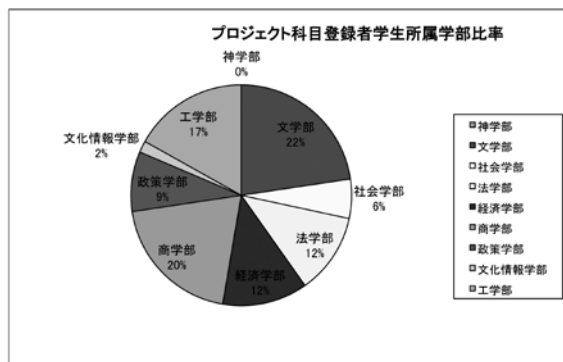
学生所属学部	登録者数		合計	比率 (%)	
	男	女		男 (%)	女 (%)
神 学 部	0	1	1	0.0	0.0
文 学 部	12	44	56	21.4	78.6
社 会 学 部	7	8	15	46.7	53.3
法 学 部	18	20	38	47.4	52.6
経 済 学 部	24	23	47	51.1	48.9
商 学 部	11	26	37	29.7	70.3
政 策 学 部	7	16	23	30.4	69.6
文 化 情 報 学 部	1	0	1	100.0	0.0
工 学 部	27	12	39	69.2	30.8
合 計	107	150	257	41.6	58.4



■2007年度プロジェクト科目所属学部・年度別登録者数（履修中止後）

学生所属学部	2007	2006	2005	2004	2003	2002	合計
神 学 部							0
文 学 部	1	21	17	26	2		67
社 会 学 部		12	5				17
法 学 部		14	12	8	1		35
経 済 学 部		10	18	8	1		37
商 学 部	1	32	18	8			59
政 策 学 部	2	15	5	4			26
文 化 情 報 学 部		4	1				5
工 学 部		15	12	22	1		50
合 計	4	123	88	76	5	0	296

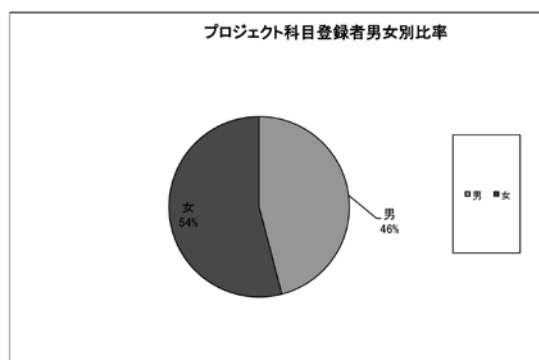
※文学部と社会学部の2007年度生（計3名）は早稲田大学交換学生で、実際は3年生以上の学生である。



■2007年度プロジェクト科目所属学部・男女別登録者数（履修中止後）

学生所属学部	男	女	合計
神 学 部	0	0	0
文 学 部	15	52	67
社 会 学 部	6	11	17
法 学 部	22	13	35
経 済 学 部	16	21	37
商 学 部	26	33	59
政 策 学 部	8	18	26
文 化 情 報 学 部	3	2	5
工 学 部	40	10	50
合 計	136	160	296

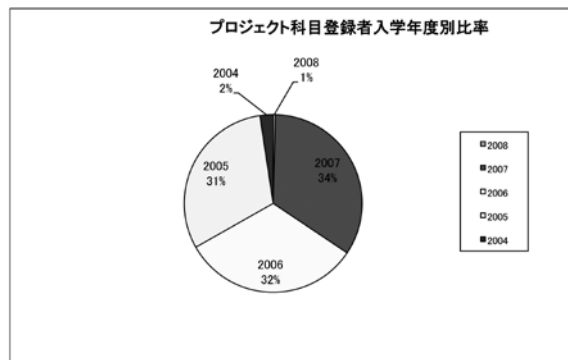
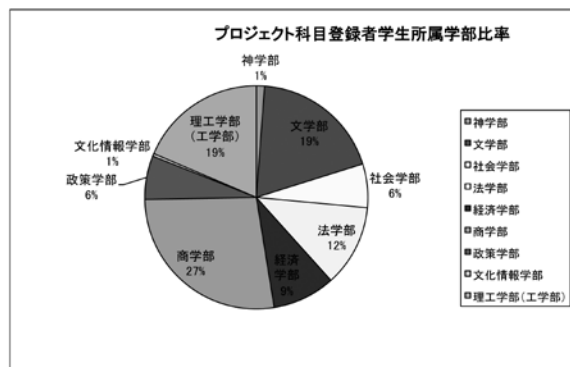
男 (%)	女 (%)
0.0	0.0
22.4	77.6
35.3	64.7
62.9	37.1
43.2	56.8
44.1	55.9
30.8	69.2
60.0	40.0
80.0	20.0
45.9	54.1



■2008年度プロジェクト科目所属学部・年度別登録者数（履修中止後）

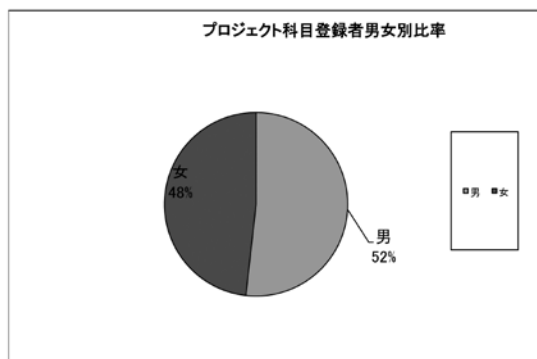
学生所属学部	2008	2007	2006	2005	2004	2003	合計
神 学 部		3					3
文 学 部		11	23	13	1		48
社 会 学 部		7	6	3			16
法 学 部	1	4	12	12	1		30
経 済 学 部		8	7	7		1	23
商 学 部		33	19	15	2		69
政 策 学 部		7	3	6			16
文化情報学部			1				1
理工学部（工学部）		12	10	21	2	2	47
合 計	1	85	81	77	6	3	253

※法学部の2008年度生は早稲田大学交換学生で、実際は3年生以上の学生である。



■2008年度プロジェクト科目所属学部・男女別登録者数（履修中止後）

学生所属学部	登録者数		合計	比率 (%)	
	男	女		男 (%)	女 (%)
神 学 部	1	2	3	33.3	66.7
文 学 部	10	38	48	20.8	79.2
社 会 学 部	5	11	16	31.3	68.8
法 学 部	22	8	30	73.3	26.7
経 済 学 部	10	13	23	43.5	56.5
商 学 部	31	38	69	44.9	55.1
政 策 学 部	8	8	16	50.0	50.0
文化情報学部	1	0	1	100.0	0.0
理工学部（工学部）	43	4	47	91.5	8.5
合 計	131	122	253	51.8	48.2



授業アンケート

科目運営の改善に反映することを目的として、各学期、成果報告会の開催ごとに学生・科目担当者を対象に授業アンケート、成果報告会アンケートの集計を行った。

2006年度プロジェクト科目アンケート(京田辺・今出川)

学生編

この科目を受講して良かったと思いますか？具体的な内容があれば、記入してください。【自由記述】

【春学期】

- ・学部学年を超えて、様々な人達が集まり目標に向かっての手段を構成していくこと。
- ・各役職に分け、各受講生が自分のタスクを完了すべきシステムを構築したこと。
- ・定期的集まり、皆の集中力が切れないようにしている点。
- ・チームで企画立案する事の重要性を身に付けた。
- ・話を聞いたり本や写真で見ただけでは分からない事も、実際に職人の方と話し、仕事を見せて頂くことで、技のすごさを実感できる場所。自分だけの力では勉強できない事をさせて頂けて有難い。

【秋学期】

- ・イベント企画をするにあたっての大変さ、プロセスなど今まで全く知らなかったことを経験できたこと。
- ・物事を同じ仲間と議論して決めていく点
- ・コミュニケーション能力が身についた。
- ・企画力やマネジメント能力を実践的に学ぶことができてよかった。
- ・チームで協力して目的を達成する事により、新しい友人ができた。

従来の座学の講義の授業と比べて、良かった点、悪かった点をご記入ください。【自由記述】

【春学期】

- 良かった点
 - ・自分の足で調査する楽しさを知り、それはとても大切なことだ感じた。
 - ・講義一つ一つの時間に価値があると思ったので、もっと力をつけようと前向きに勉強する気持ちになれた。
 - ・先生の講義が、近くで聴け集中できたこと。
 - ・実際社会に出た時に役立つ情報や知識をもらえた。
 - ・自分の行動が全てに影響する点。
- 悪かった点
 - ・毎回集合場所が異なり、場所が分かりにくい。
 - ・自由すぎて何をしても良いか分からなかった。
 - ・グループ内で合わない時は、意見の主張のし合いが大変だった。
 - ・学部、学年がばらばらな為、授業の打ち合わせや取材等の日時や場所があわない。
 - ・科目の期間自体に融通がきかない。

【秋学期】

- 良かった点
 - ・受講者の意識が高い人が集まっていたのでおもしろかった。
 - ・学んだ事を実践できるため、インプットとアウトプットのバランスがよいと感じた。
 - ・自分達の力で何かひとつのものを上げるプロセスがたのしかった。
 - ・少人数の講義のため、意見交換がしやすい。
 - ・自主性を求められるので、積極性が身についた。
- 悪かった点
 - ・時間の制約が厳しかった。
 - ・進行がうまくいかず、無駄な時間が多かった。

- ・自分で情報を得ようとしても、思うようにいかなかった。
- ・講義形式ではなかったので、準備不足だった。
- ・成果がまとめきれなかった。

今後、どのような科目であれば受講したいと思いますか？
開設を希望するジャンルや具体的なテーマがありましたらご記入ください。【自由記述】

【春学期】

- ・日本の服飾文化
- ・大学と地元地域との交流
- ・京都という歴史のある町の良さを生かした授業
- ・商品開発、企業とのタイアップしたイベント
- ・写真関係

【秋学期】

- ・楽器・声楽など音で自己表現する科目
- ・地域コミュニティに関するもの
- ・京都の伝統工芸など、実際に学んで制作する科目
- ・ビジネスを体感できるような科目
- ・地域に貢献できるもの

その他、何かご意見があればご記入ください。【自由記述】

【春学期】

- ・講義自体は大変であるが楽しいし面白いが、システムがしっかりしていないように思うので、自由ではあるがどこまで行動して良いか分からず行動が制限されてしまう様に感じる。
- ・色々な人の意見が聞けて考える点も多く、活気的で自分にとってプラスになった。
- ・公募の段階で、プロジェクト科目の趣旨を徹底させたほうがよい。

【秋学期】

- ・いろいろな人達に支えられて授業が成り立っていた。
- ・プロジェクト科目は今年が一年目なので、良くも悪くもこれからだと思う。
- ・知識だけでなく、多くの社会性を身に付けることができる素晴らしい科目だと思う。

教員編

学生の授業への取組について具体的な内容があれば、記入してください。【自由記述】

【春学期】

- ・出席率の非常に高さ（95%）に象徴されるように、授業に対して積極的な学生が多かった。
- ・ゲストスピーカーにも、受講生から多くの質問があった。
- ・非常に素直で学生間また担当者に対しても、まず受け入れる態度が良い。
- ・受講生たちは積極的に参加し、撮影や編集の基本技法は早いうちにマスターできた。
- ・熱心な学生達は自分の時間を使い、積極的に関係者及び団体との人間関係を作る努力をしている。
- ・素直なせいも、創造的な事、人と違う事を考え行動する事は苦手なのか避けているのか、クリティカルな視点が欲しい。
- ・最大の問題は、学生達の時間が講義時間以外に取れない事。この為、少し遠出の社会調査となるとなかなか日が取れない。

【秋学期】

- ・期待以上に熱心に取り組んでくれた。
- ・モチベーションが高い。
- ・学生達が和やかな人間関係を維持した事。
- ・IT機器が充実したので、初期の目的を達成することができた。
- ・開講当初は戸惑っていたが、時間がたつにつれて学生達が1つにまとまっているのを見て感心した。
- ・プロジェクト科目が要求する学生に対する時間と、学生の現実の生活とが合っていないため苦悩している学生を見るのが辛かった。

授業への支援体制や制度について具体的な内容があれば、記入してください。【自由記述】

【春学期】

- ・TAのサポートが大変有難い。
- ・教務課や講師控え室の対応が丁寧でメール等のやり取りも早かった。
- ・お金の支払いに多くの時間がかかる。
- ・会計に関しては手続きが複雑で、負担が大きかった。

【秋学期】

- ・科目代表者（学内専任教授）の指導協力が適切で、思い通りのプロジェクトを達成できた。
- ・提出書類が多く、締切日に余裕がない。
- ・学生の気質を身を持って知ることができ、新しい体験ができたこと。
- ・関連資料を置いておく場所がない。

全体的に工夫すべき点や要望がありましたら、記入してください。【自由記述】

【春学期】

- ・人数のわりに教室が広すぎる。もう少し小さい教室の方が落ち着き、集中力もアップすると思う。
- ・通年の場合、春学期に興味を失ってしまう者、や開講後登録抹消する学生がいる。その一方で、プロジェクトにボランティアとしてでも参加したいと望む熱心な学生もいる。プロジェクトへの参加を希望する学生に対して、条件をつけて秋学期に人数が減った分を補充出来るシステムが欲しい。
- ・今の学生は忙しいという現実を知った半年だった。忙しい人が興味を持つのがプロジェクト科目なのかもしれない。
- ・一年間成果中心にカリキュラムを作るのではなく、プロセス（人間関係作りで少なくとも半年はかかるので一つ一つ交渉技術を学ぶのにも時間がかかる）を大切にして、学生自身がなにか一つでも自信を持てる為のプロジェクト科目であつたらいいと思う。

【秋学期】

- ・プロジェクト科目のPRの場が少ないので、もっとプロジェクトの良さや、各テーマの理解を得る工夫がほしい。
- ・学生の主体的な学習を引き出すという目的は達成できていると思われるが、人材育成という目標は、半期や通年では時間が足りない。
- ・学生には色々な社会活動や将来の為の準備や授業があることを、もう少し理解した上でプロジェクトの運営をしていきたい。

2007年度プロジェクト科目受講生アンケート(京田辺・今出川)

学生編

この科目を受講して良かったと思いますか？具体的な内容があれば、記入してください。【自由記述】

【春学期】

- ・色々な価値観をもつ人々の意見を聞くことができ、視野を広げることができた。
- ・グループ活動を通して、今まで自分に欠けていた積極性・行動力・コミュニケーション能力・企画力などが身についた。
- ・他学部の学生と少人数のグループで活動やディスカッションをしたり、経営者の方の話を聞いたり、会社を訪問するというような、普通の授業では得られないような機会が多数あったこと。
- ・社会の第一線で働いている方の生の声、講演を聴くことができる。その中でも、社長直々の貴重な講演を聴けるのが一番の魅力だった。
- ・授業外での活動では、よく活動する人とそれほど活動しない人との差ができてしまうように感じた。

【秋学期】

- ・人と共同作業をすることによって、自分の役割や責任を自覚して行動することを覚えた。
- ・科目担当者との距離が非常に近い点が良い。
- ・興味をもった事や、やりたいことを自分達なりに進められるのがよかった。
- ・様々な企業のオフィス内部を見学させて頂き、そこで働く方の生の声を聞く事ができた。
- ・授業の前半は、いつもの講義のような一方的に教えられるものが多かった。皆で話し合っつけていけるような授業をう

けたかった。

従来の座学の講義の授業と比べて、良かった点、悪かった点をご記入ください。【自由記述】

【春学期】

○ 良かった点

- ・現地見学ができたので、スケールの大きさを目で見ることができたこと。
- ・フィールドワークによって、知らない世界を肌で感じる事ができた。
- ・学部も学年も違う仲間達と出会い、試行錯誤しながらコミュニケーションを図り、勉強の他に、人間性も学ぶことができた。
- ・自ら課題を発見し、行動、解決していく力が必要とされる点
- ・「単位の為」ではなく、「自分の為」にと考えている人達が集まっているので、互いに切磋琢磨することができた。

● 悪かった点

- ・学外での授業は、移動時間を考えると次の授業がとれない。
- ・自主性がないと、授業を受けても何も残せていないように思った。
- ・迷いがあるって先に進めないこともあった。
- ・達成目標があらかじめ設定されているわけではないので、何をどこまで掘り下げるべきなのかを見失いがちな。

【秋学期】

○ 良かった点

- ・知識を実践的に使うことの面白さを感じた。
- ・自分達で授業内容を決めて進められる点。
- ・様々なオフィスを見学でき、様々な企業の方にインタビューができてよかった。
- ・責任感が身につく。
- ・ディスカッションなどを組み込むことにより、自ら考え、他人の意見を聞くことができた。

● 悪かった点

- ・学生主導で進めていくにあたり、取材交渉にて学生では力不足の点があった。
- ・時間がとられるので、他の授業との兼ね合いが難しい。

今後、どのような科目であれば受講したいと思いますか？

開設を希望するジャンルや具体的なテーマがありましたらご記入ください。【自由記述】

【春学期】

- ・経営者との交流ができる科目
- ・企業訪問などを通して会社や社会を見る目を養える科目
- ・企画・立案・予算の管理などを学生で行い、イベントを立ち上げる科目
- ・自然体験をテーマにしたもの
- ・京都の町を活性化させるようなプロジェクト

【秋学期】

- ・美術展覧会運営プロジェクト
- ・スポーツ関係のプロジェクト
- ・京都散策・京都を知る・京都らしいテーマ
- ・商品開発のプロジェクトなど制作系のプロジェクト
- ・就職活動関連

その他、何かご意見があればご記入ください。【自由記述】

【春学期】

- ・積極性が求められる、普段の授業では得られない機会が沢山あるので、プロジェクト科目を受講することは、将来にも大いに役立つと思った。このような参加型の科目を増やしてほしい。
- ・普段の授業に比べ、勉強は勿論人間性やコミュニケーションも学べ、生きていく上で、より実践的な事を学べたのが本当によかった。またこの科目をとりたい。
- ・ゼミのような雰囲気もあったが、学部を超えた交流もあった。
- ・テーマによって、忙しさが違うのは疑問に思う。(例えば、フィールドワークがない授業はとても楽など。)
- ・この科目は自分で決め、自分で動くので、どんどん「自分」が発見できる場だと思う。「先生がつまらない」「内容がつま

らない」と言うこともない。

【秋学期】

- ・人数が少ないのに、充実した授業がうけられるというのが一番の魅力だと思う。
- ・ゼミの前にこういう授業があってとても為になった。
- ・受講生や先生と連絡がとりやすい制度があればよいと感じることがあった。

教員編

学生の授業への取組について具体的な内容があれば、記入してください。【自由記述】

【春学期】

- ・初めは遠巻きに観察している感じだったが、どんだんやってきて自主的に活動を始めた。互いの良さを生かす方向へ加速してきた。
- ・各受講者が科目のテーマについて、意識を持って参加している。
- ・各々の考えを要領よく話すことができる。
- ・熱心に現地踏査等をしてきている。
- ・授業という枠を超えて、自主的な取り組みが拡大している。
- ・与えられた環境に対し、創意工夫をし、プラスαの価値を出そうと努力している。

【秋学期】

- ・互いに敬意とプライドを持って、協働作業を行える。一人一人が率先して責任を持つという態度に満足している。
- ・学生が初めて教室に入って来た時と授業が終わった時の顔の輝き方が違って生き生きしてきたので、本当に嬉しく思う。
- ・短い間で、学生たちが自ら何らかの気付きを得たことが嬉しい。社会人予備軍が何を考え、どんな潜在能力がありそうか、自分の目で確かめられた。
- ・学生の資質が素晴らしい。
- ・学生のまじめな取り組みがあった。

授業への支援体制や制度について具体的な内容があれば、記入してください。【自由記述】

【春学期】

- ・自由に学生と進めることができる。
- ・TAの存在に助けて頂いている。
- ・教務課の担当者が窓口として良く機能されている。対応も非常に丁寧で親切であり、分かりやすい。
- ・ITの環境が整備されている。しかし、学生が理解していないところがあり、ITリテラシーの向上に期待したい。
- ・他のプロジェクトとの交流の場がなかった。

【秋学期】

- ・通常の授業はメディア工房を借りてMacを中心に打ち合わせ編集を行っているが、毎回コンピュータを縦横に使える部屋での授業は満足している。
- ・科目代表の先生やTAに助けていただいた。
- ・教員への細かい支援、また学生を大事にしていることに感銘を受けた。

全体的に工夫すべき点や要望がありましたら、記入してください。【自由記述】

【春学期】

- ・これから継続的にプロジェクト科目が発展していくことが、大学にとってプラスになると思う。
- ・このまま彼等が成長すると、今のメンバーで新規事業が出来そうだ。まだ、遠回りの試行錯誤もしているが、おそらく後期の最後には物事の視点の捉え方・文章表現方法・世間とのコミュニケーション・写真映像スキル、が数段進歩して世間でも通用するそれぞれのメンバーに育っていると思う。
- ・リーダーを4月中に決めるのには、無理があると思う。本当にリーダーにふさわしい学生は自ずとでてくるが、もう少し時間が必要だと思う。

【秋学期】

- ・プロジェクト講師のポジショニングが「企業の上司」「人生の先輩」「科目の講師」のどこをとるべきなのかには、色々なシーンで教える側も困惑した点が多々ある。
- ・社会に学ぶ“地域社会が学生を育てる”はよい企画であるが、社会が困っているテーマをうまく選択し時間をかけて取り組む事が必要と思う。

2008年度プロジェクト科目受講生アンケート(京田辺・今出川)

学生編

この科目を受講して良かったと思いますか？具体的な内容があれば、記入してください。【自由記述】

【春学期】

- ・受け身の授業ではなく、自分の考えが反映されるのがよかった。
- ・プロジェクト科目を通して普段接することのできない大学関係者、外部企業者と会え、一つの事象に対して多角的に考えることができた。
- ・普段とは違う分野の勉強をすることで、他の観点からの考えや知識が身についた。
- ・ディスカッションや実際に見学を訪れるなど、普通の受け身の授業ではなかなかできないことを体験できた。
- ・経験豊かな先生と出会えたことは一生の財産だと思う。

【秋学期】

- ・意欲が高い学生と共に学びあい、成長できた。
- ・ビジネスマナーが学べ、自分の将来についても現実的に考えることができた。
- ・チームで何かを成し遂げる喜びとその難しさを学べたこと。
- ・様々な協力者がそれぞれの専門分野を詳しく教えて下さったので、知識を身につけられた。
- ・プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が上がったと思う。

従来の座学の講義の授業と比べて、良かった点、悪かった点をご記入ください。【自由記述】

【春学期】

- 良かった点
 - ・ディスカッションが多かったので良い経験になったし、自分の言葉に責任が持てた。
 - ・緊張感を保った授業で、本当に自分の力になる気がしてよかった。
 - ・疑問に思ったら、すぐ議論することができる。
 - ・ブレインストーミングを始め、自ら関わることができ、中心にいるという実感ができたのでよかった。
 - ・主体的な行動が求められるので、より深く考えようすべきか絶えず念頭に入れていた。これは自分を成長させる近道の1つだと思う。
- 悪かった点
 - ・授業時間以外の時間をかけないと成果が得られない為、自分の時間が持てない点
 - ・主体的に動かなければ成り立たない授業だからこそ、動かない人が目立つし、困らされた。
 - ・生徒主体なので、方向性が分からなくなる時がある。
 - ・スケジュールに無理がある。

【秋学期】

- よかった点
 - ・自由度が高く、大学から飛び出して学びの場を求められるのがよい。
 - ・座学の授業ではこんなに自分自身やメンバーと真剣に向き合っモノを考えることはないと思う。
 - ・目標を先生から与えられるのではなく、自分達で考え達成していくのでモチベーションが高く保て、達成感も大きい。
 - ・チームで役割分担をすることによって、グループ作業の大切さを学んだ。
 - ・人間関係の広がりが実感できた。
- 悪かった点
 - ・座学と比べて、非常に時間がかかる。

- ・活動時間や内容などを自分達で組んでいたのに、計画倒れになることもしばしばあった。
- ・運営費をもう少し増やして欲しい。
- ・各受講生の価値観の違いにより、全員で1つのことができなかった。

今後、どのような科目であれば受講したいと思いますか？
開設を希望するジャンルや具体的なテーマがありましたらご記入ください。【自由記述】

【春学期】

- ・マーケティングや経済に関する科目
- ・実際に企業と協力して広告を手がけるといった内容の広告関係の科目
- ・文系・理系が融合した科目
- ・子どもと触れ合える科目
- ・環境についての科目

【秋学期】

- ・広報物を介して町おこしを促進する科目
- ・地域と交流がもてる科目
- ・社会的意義があるテーマの科目
- ・年配の方との交流ができる科目
- ・統計学を実践的に取り組める科目

その他、何かご意見があればご記入ください。【自由記述】

【春学期】

- ・もっとプロジェクト科目をアピールして受講生を増やしてほしい。
- ・大学生の間に、プロジェクトを受講するべきだと思った。
- ・この科目をとって、大学の授業に対する考え方が変わった。大教室のような授業はどんなに真面目に受けても試験勉強を頑張っても身につけている気は全くなかったが、自分で考えて行動するプロジェクト科目は経験として力になっていると思う。
- ・精神的、体力的にきついが、自分の身になっていることばかりなので頑張れる。
- ・意見交換が活発に行えるので、いい刺激になった。

【秋学期】

- ・担当の先生の教えて下さる能力が高く、色々なフィールドワークに行き自分が変わった。
- ・プロジェクト活動で、将来の方向性が掴めたと思う。
- ・色々困難な事もあったが、最後までやり通すことができてよかった。
- ・会計や広報の手続きの簡略化してほしい。

教員編

学生の授業への取組について具体的な内容があれば、記入してください。【自由記述】

【春学期】

- ・最初は目標が無かったが、授業の中で目標が表れ明確になり困難を乗り越えて時間内に目標が達成できたこと。
- ・折々の課題に真面目に取り組む姿勢、熱心に調べる態度、自分の考えを素直に述べられることにより展望を感じる。
- ・メンバーと一緒に結果を出そうという目的意識が高い。
- ・翌週までに何らかの活動、進展を考えている。
- ・必須でないこの科目に応募してくる学生は総じて積極的であり、負荷をかけても何とか乗り越えようと努力する。

【秋学期】

- ・学年、学部等の壁を自ら乗り越え、目標達成のために団結して取り組んでくれた。
- ・受講生が互いの個性を理解し、尊重した上で、自分は何をすべきか、誰に何を任せるべきかを的確に判断して進めていった。
- ・漠然としたテーマに対して、調査・学習するところから具体的なプロジェクトの設定までを自主的に行えたこと。
- ・プロジェクト科目の趣旨の受け取り方に温度差があり、その溝が埋まらない。協同で取り組むことで、殻を破って欲しい。
- ・きっかけをうまく提示すれば、積極性と創造性を大いに発揮する。

授業への支援体制や制度について具体的な内容があれば、記入してください。【自由記述】

【春学期】

- ・授業運営における教室環境や機材の貸し出しが充実している。
- ・事務の方の対応が大変丁寧できめ細かく感謝している。又CNSの活用など授業を活性化させる支援も大変よいと思う。
- ・報告書の作成等、教員としてもプロジェクトに関わる時間が半端でないこと。けれども私はこれが本来の教育の姿であろうと思う。
- ・資料も増えて持ち運びや移動に苦勞する。ロッカーでもあれば助かる。

【秋学期】

- ・学期ごとの報告会やシンポジウムの開催などで、振り返りと学びの場が与えられ、
- ・学生と共に担当者自身も責任を自覚し、学ぶ姿勢を要求されることがとてもよい。
- ・プロジェクトの自主性を尊重してくれ、学生の主体性を重視したスタンスで、科目運営について考えてくれている。
- ・雑務が多いわりに、事務担当者を頼む予算がない。
- ・CNSはメディアリテラシーという観点からも非常に優れていると思う。

全体的に工夫すべき点や要望がありましたら、記入してください。【自由記述】

【春学期】

- ・可能な範囲での提出書類のデジタルフォーマット配布
- ・学生にとって、かなりの額の授業運営費なので、なかなか大きな遣い方が出来ないと感じる。会計担当者だけでなく、受講生全員が会計の仕組みを早いうちに知り、マニュアルの資料を持っておくべきではないかと考える。
- ・ブログの試みはとてもよいと思う。ただ、関係者のみが閲覧している可能性が高いと思うので、ホームページにおいてももっとPRしてみるとよいと思う。

【秋学期】

- ・講義資料や学生の課題資料をオンデマンドで出力できる環境を多く整えて欲しい。
- ・多様なプロジェクトがあるのに、各科目の評価軸が共有されていてよいのだろうか。

新聞記事



2006年7月27日 京都新聞 朝刊
2006年度プロジェクト科目 小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究

「箸守り」持ち歩いて 同大生「はしの日」にPR



キャンペーンでプレゼントするはし「箸守り」をたすけ田さん(京都府京都市)と、同大生(左)の二人。

同大生(京都府京都市)が布製のはし「はしの日」には午前、活動しているのは商業部の三年の井田万佐子さん(左)と、おはしを持ち歩く習慣を普及させる「箸守り」をPRする。同大生(京都府京都市)が布製のはし「はしの日」には午前、活動しているのは商業部の三年の井田万佐子さん(左)と、おはしを持ち歩く習慣を普及させる「箸守り」をPRする。

「箸守り」の習慣を考えた。キャンペーンでプレゼントするはし「箸守り」をたすけ田さん(京都府京都市)と、同大生(左)の二人。同大生(京都府京都市)が布製のはし「はしの日」には午前、活動しているのは商業部の三年の井田万佐子さん(左)と、おはしを持ち歩く習慣を普及させる「箸守り」をPRする。

2007年8月3日 京都新聞 夕刊
2007年度プロジェクト科目 new文化創生 町屋の伝統的な行事を知り日本人の心を取りもどす(先人の知恵)

地域密着滞在型ツアー 井手で奮闘



実現可能なニューツーリズムのプランをめぐって、互いのアイデアを出し合う住民と学生の話し合いの場(京都府井手町井手・まちづくりセンター権版)

「新観光」カギ 住民との連携

近年、名所旧跡を巡る従来の観光はほひと味違う住民との交流の体験を求めた地域密着の滞在型観光「ニューツーリズム」に目が集まっている。京都府井手町でも行政、住民、学生、旅行会社がタッグを組んで、新しい観光のまちの「萌発化」を模索している。今年四月から始まった同町のニューツーリズムの取り組み(京田支局 小林ゆ恵)

「新観光」カギ 住民との連携。近年、名所旧跡を巡る従来の観光はほひと味違う住民との交流の体験を求めた地域密着の滞在型観光「ニューツーリズム」に目が集まっている。京都府井手町でも行政、住民、学生、旅行会社がタッグを組んで、新しい観光のまちの「萌発化」を模索している。今年四月から始まった同町のニューツーリズムの取り組み(京田支局 小林ゆ恵)

府内工部観光・コンベンション室の青柳良司室長が講師を務める同大生(左)と、同大生(右)の二人。同大生(京都府京都市)が布製のはし「はしの日」には午前、活動しているのは商業部の三年の井田万佐子さん(左)と、おはしを持ち歩く習慣を普及させる「箸守り」をPRする。

2007年10月20日 京都新聞 夕刊
2007年度プロジェクト科目 量から質への「京都型ニューツーリズム」の開発と流通

地方の魅力発掘

新卒早々、観光都市・京都にまつた新しい視点の観光ツアーが登場する。

企画したのは同志社大学のプロジェクト科目「京都型ニューツーリズムの開発と流通」を受講する学生たち。今春から企画を始めて9カ月、現地調査や地元の人たちとのコミュニケーションを重ねた結果、年末に「ニューツアー」として販売されることになった。

この間の学生たちの取り組みの様子を、地元タウン誌「LIFE（リーフ）」が連載して応援し、旅行会社、ツアーランドがほとんどオンラインツアーの売り出しを決めた。

こうした地元への支援を受け、国土交通省もニューツーリズム創出・流通促進事業実施事業として認定した。



学生企画 大人の京都修学旅行

一人はいい。ツアールートには、これまでほとんど京都観光ルートに登場したことがない京都府井手町と和束町を連れた山道で、宇治茶の一本生産地・和束町には一面、茶畑が広がる。

いかにも、癒しの地、といつた情緒が漂う地で、昔から「山背古道」と呼ばれており、さぞくツアーのタイトルに拝借した。ツアーの名称は「大人に来て欲しい手づくりの修学旅行。3泊4日 京都・山背古道で心休、深呼吸。QOL向上の旅」。少し長いが、学生たちの熱意が感じられて好ましい。

特に「QOL」クオリティ・オブ・ライフ「生活の質」向上の旅には、新しい京都観光の意味を込めた。竹炭めぐりや薬膳料理教室など、ほかにも京都郊外の自然を体験する「ニード」で構成されている。

「手仏閣では、京都府城の観光に多くの人に関心を持ってほしい、地域のやる気向上してほしい。そして京都観光のイメージが拡大するのを期待しています」というのは同科目の嘱託講師、青柳良明さん。

青柳さんの本職は京都府商工部観光コンベンション室の室長だ。京都府と大学の観光開発への「本気」が垣間見える。

世界の旅行会社がこぞって企画販売する「京都の旅」。大学生の企画をツアー化するのは京都初の試みという。

実施日は新年1月11日から14日。成功すれば「今後の旅行商品」として、国土交通省から全国の旅行业社に紹介される予定だ。（TMオフィス社長 殿村美樹）

新しい視点で「京都の旅」を企画した同志社大学の学生たち。講師の青柳良明さん（中央）は京都府の観光室長だ。

2007年12月28日 フジサンケイビジネスアイ
2007年度プロジェクト科目 量から質への「京都型ニューツーリズム」の開発と流通

ぶらぶら京道遙 妙味指南



「道遥」を始める都ガイド作りに参加した同志社大学の学生さん

ぶらぶらと歩きながら京都の魅力を見つけてもらおうと、同志社大の学生がこのほど、実際に歩いて出会った人や場所を紹介した冊子「夢想」を制作した。二月一日発行の月刊誌「京都CF」に少しはほか、関川として京都市内の公共施設やカフェにも置く予定で、「よほどの人にも」と京都が愛されるきっかけになつてほしい」と期待を寄せている。

授業の成果冊子に

学部を越えて単年度で、冊子はA4判三十一表筒を交えながら書き取り組む同大のプロジェクト。学生たちが授業の合りで紹介、目的地だけをエクト科目の成果とし、問や答を使い、街中「目指すだけではない」「道遥」二〇〇七年度の授業を歩いて見つけたら、道遥の楽しさを伝えて、受講した学生十人が編集、執筆した。地域で暮らす人々の、表面に花の模様がある

「板石にまつわる面白い伝説素材、記事にした経済学部三年の企画生さん（左）は「街をめぐり歩く」と、建物だけでなく、京都だけの情や歴史など、普段は気付かない面も見えた」と、授業を担当し、学生に取材や記事の書き方を指導した京都CF主編室長の元橋一裕さんは「観光ガイドに頼るのではなく、場所に行くだけでは、街のうわべしか分らない。道遥」で実感を届けてほしい」と話している。問い合わせは同大教務課（075-551-4000）。

2008年1月31日 京都新聞 朝刊
2007年度プロジェクト科目 新しい京都の道遥ガイドンスを作ろう!

「子どもの教育」

ぶらぶら歩こう京の街—

同志社大生がガイド冊子

同志社大生が京都の街のぶらぶら歩きを勧めるガイド冊子「歩想」を作った。各学部学生が受講する授業「プロジェクト科目」で、1年間かけて仕上げた力作。1日発売の月刊誌「京都CF」などに必載されるほか、大手コンビニ、タンスーなどで無料配布される。「コンセプトは「もっと京都を愛したくなる」」。同誌元編集長らが講師になった授業で、10人が冊子作りに取り組み、各所を駆け足で回るだけの旅に満足できない観光客の心を、もっと歩きたがらせる。お気に入りのスポットを見つけてもらうのが狙い。学生たちが取寄せ、原簿を執筆。講師から何度も添削を受け、1人1人力が入り、ユニークなトイレをまとめた特集1冊もある。冊子編集長の学部3年、中村祐希さん(22)は、錦帯橋を10軒上巡った結果、脱衣場のアップホームな会話をが印象的だった中京の「錦帯橋」を特に取り上げることになった。中京の「職人」に、自分にとって大切な場所を見つけた、と思ってもらいたい」と話している。



京都のガイド冊子を作った中村祐希さん(左)と中田一誠さん=上京区で

2008年2月1日 朝日新聞
2007年度プロジェクト科目 新しい京都の逍遥ガイド冊子を作ろう!

京のものづくり見て学んで

同大生が教材作成

同志社大の学生が、茶室を切り口にして京都の伝統産業を学ぶ、社会科の補助教材「京都もつと発見図鑑」を作った。子どもたちが「見て、触れて、考える学習」へ深めていくように、職人のインタビューから伝統産業の奥深くを掘り出す内容に練り上げた。



「京都もつと発見図鑑」の仕上がりを楽しむ学生たち(京都市中京区)

作成に携わったのは、学内外から研究チームを公募する同志社大のプロジェクト科目で、システム開発会社(22)「京都」を募集した学生7人。地域学習をする小学3、4年生向けに、京都ならではの職場を知り、伝統産業に誇りを感じられる教材を作った。茶道具を作り続ける千家十職の職人をはじめ5人に直接インタビューし、ものづくりの工程やこだわりを取り入れた。職人が使う道具の写真や豆知識なども交え、子どもの好奇心に訴える内容に仕上げた。教材としての難易度調整は、現役教諭からの助言を受けた。学生たちは一月中旬

千家十職取材「熱い思い触れて」

同志社小(左京区)で先生を相手に模擬授業を行い、6年分の歴史学習に使った。2月10日に、同小四年の社会科授業で実際に使った。メンバーのうち、文学部四年の安本梓さん(22)は、「西京区と大野野さん(23)は京都市上京区は、職人の熱い思いに触れた。伝統産業を身近に感じられる教材を作った。茶道具を作り続ける千家十職の職人をはじめ5人に直接インタビューし、ものづくりの工程やこだわりを取り入れた。職人が使う道具の写真や豆知識なども交え、子どもの好奇心に訴える内容に仕上げた。教材としての難易度調整は、現役教諭からの助言を受けた。学生たちは一月中旬

2008年2月20日 京都新聞 朝刊
2007年度プロジェクト科目 子どものための「京都職場図鑑」制作プロジェクト



学生たちのアドバイスを受けながら、様々な形を作り上げる児童たち(精華町で)

表現の楽しさ 同大生が伝授

子どもたちに表現をデザインする楽しさを伝える講座が20日、関西文化学術研究都市の研究機関「大川センター」(精華町)で開かれた。同大生が実践型授業として行う「プロジェクト科目」の一環として、同センターと協力して開催。小学3、6年の児童約20人が参加した。学生らは、水が流れる音や風の音をコンピュータから流し、児童たちに、そこから想像されるデザインを紙や布、綿などを張り合わせて表現してもらった。児童たちはアドバイスを受けながら、月や花、虫など思い思いの形に作り上げた。

2008年6月30日 読売新聞
2008年度プロジェクト科目 新しい学の間として子ども向けワークショップのデザインと実践



キャンパスに雨水タンクを設置した同志社大の学生と上田さん(京都市上京区)同大生(精華町)

水の大切さ訴え 雨水タンク設置 同志社大で学生ら 同志社大新町キャンパス(京都市上京区)の現状を学び、自らの行動しようとして大学に設置を働きかけた。雨水の大切さを訴え、教育にも活用で、学生たちも雨の日のハイブを切るなどの作業を手伝い、二百五十リットルのタンクを据え付けた。当時は花壇の水やりにも活用しながら、学内に広報し、打ち水の効果や酸性雨などのワークショップでの活用を検討していく。受講生の野口真由美さん(社会学部三年)は「設置して終わりではなく、雨水と環境について学べるようにしたい」と話していた。授業を担当する京都、雨水の会の上田正幸代表は「水を通して地球と環境について考えるきっかけにしたい」と話していた。(福屋)

2008年7月19日 京都新聞
2008年度プロジェクト科目 水環境政策～「雨水局」から総合的に考える

同志社大学の講義から誕生 学生が開発した新感覚スイーツ「しょうゆシュークリーム」



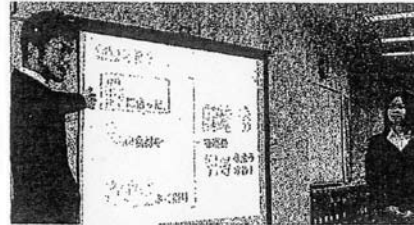
同志社大学で、今年の4月から半年間開講されていた講義、プロジェクト科目「新京都みやげの創造」(講師:酒井宏彰)で、学生達が開発したこの「しょうゆシュークリーム」。「京都の和の心を忘れず、斬新さとおいしさを追求したい」という学生の想いを株式会社おたべ全面協力のもとに商品化されました。商品コンセプト、パッケージ、価格設定まですべて学生が考え、サクサクの生地の中には、醤油を使ったカスタードクリームと生クリームを。甘過ぎず、クド過ぎない、絶妙な加減を達成。「おたべ本舗」にて1個125円で好評発売中の新感覚「しょうゆシュークリーム」一度ご賞味あれ!

おたべ本舗

京都市南区京田辺十条西入ル北野
Tel.075-681-8284
営業時間/9:00~18:00 年中無休 P/あり
http://www.otabe.co.jp/

2008年12月13日 京都新聞 夕刊
2008年度プロジェクト科目 新京都みやげの創造

同志社大生が「薬膳」出前授業
京田辺 同志社 国際中・高で
同志社大のプロジェクト科目「食育と健康」で、薬膳について学んでいる大学生らが9日、京田辺市の同志社国際中・高等学校で高校生らに、出前授業をした。写真。同科目はNPO法人「げいはんな薬膳研究所」の井原浩二理事長が授業をしており、学生約10人が受講している。



「薬膳とは、体に合った旬の食材をバランスよく取り、自然治癒力を高めること」と話し、クイズなどを交えて作った料理が載った冊子が配られた。授業には教師らも参加し、同校1年の西村信哉さん(16)は「中学から陸上をやっているのに、食事の栄養の大切さが分かりました」と話した。写真(も) 藤田健志

2008年12月13日 朝日新聞
2008年度プロジェクト科目 「食と健康」(薬膳の食養生を中心として)

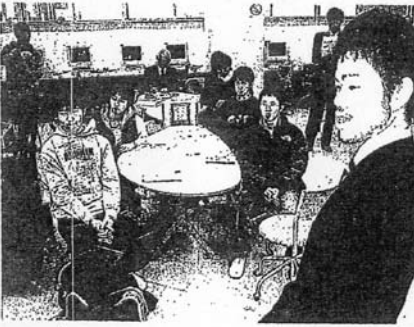
音楽と水墨画のコラボ
あすクラシック演奏会
中京で同大「プロジェクト」

同志社大学の「クラシックコンサート文化を創るプロジェクト」は、十一月午後二時から、楽譜演奏と水墨画を組み合わせたコンサートを、中京区千本通御池東入ルの「BAS」

2009年1月10日
京都新聞
2008年度プロジェクト科目 「クラシック・コンサートを創る」プロジェクト

巨で催す。新しいクラシックコンサートあり方を考える、学生主体のプロジェクト。音楽が奏でる力を目に見える形で表現し、西洋と東洋の文化の出会いを体感してもらう。コンパートでは、バイオリンの循環里泉さん、尺八とフルートを組み合わせた「尺ルート」の谷藤紅山さんの演奏とともに、水墨画家の王石明さんが水墨画を揮毫。趣向。三人による座談会も行われる。無料。予約が必要。申し込みと問い合わせは午後八時~十時の間に、スタッフ横村さん(0900006115)300000。

学んだ食育伝える



「正しい食事と健康」をテーマに、同志社大が先生を務める出前授業が9日、京田辺市の同志社国際高校であった。写真。学部のプロジェクト科目「食育と健康」の受講生7人。先授業したのは、同大商学部2回生の白井宏恵さん(22)ら。「授業で学んだことを実践し、世の中役に立てよう」と自主的に企画した。授業では、漢方の発想に基づいた薬膳料理についてクイズを交えて紹介。「スイカは体温を下げる効果がある。身体に合った旬の食材をバランス良く取ること」で治療力が高まる。などと指導した。授業を受けた1年生の西村信哉さん(16)は「母はいつも食事に旬のものを取り入れてくれるが、健康によいということが分かった」と話した。

2009年1月10日 毎日新聞
2008年度プロジェクト科目 「食と健康」(薬膳の食養生を中心として)

演劇教育の効果
シンボで考える
あす同志社大で
演劇を教育現場に生かすことを考える「大学生による実践から考える演劇教育シンポジウム」が十八日、京都市上京区の同志社大今出川キャンパス明徳館で開かれる。同志社大が、実践・参加型授業「プロジェクト科目」の一つとして本年度に開講した演劇教育をテーマに企画した。午後一時から、授業に参加した学生が演劇で企画の趣旨を説明した後、パネル討論で、運行・劇団衛星代表、山田和人・同大教授や学生が、子どもに演劇を作る作業に参加させることによる教育効果などについて意見を交わす。無料。

2009年1月17日 京都新聞 朝刊
2008年度プロジェクト科目 「演劇で地域の子ども達と学ぶ」企画実践プロジェクト

平成 18 年度 文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム採択事業

**公募制のプロジェクト科目による地域活性化
— 往還型地域連携活動のモデルづくりを目指して —
取組報告書**

2009 年 3 月 発行

編集・発行 同志社大学 教育支援機構 教務部 教務課
プロジェクト科目検討部会事務局
〒602-8580 京都府京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL 075-251-4630 FAX 075-251-3064
E-MAIL : ji-pbl@mail.doshisha.ac.jp

WEB サイト (ホームページ) : <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>
(ブログ) : <http://pbl.doshisha.ac.jp/blog/>

禁無断転載 非売品